

22節を見ると、エルサレムで神殿奉献記念祭が行われていたとあります。この神殿奉献記念祭とは、紀元前164年にユダヤはシリアに支配されていました。そのシリアのアンティオコス・エピファネス王が自分の像をエルサレム神殿の祭壇に建てたことで、ハスモン家の祭司であるユダ・マカバイが立ち上がり、ユダヤ民族の独立のために戦い、エルサレム神殿を奪回して、祭壇から偶像を取り除くことに成功し他のですが、このことを記念して毎年12月に一週間、宮清めの祭りとして行われるようになった祭です。

この宮清めの祭りの時に、イエスがソロモンの回廊を歩いていた時、ユダヤ人の指導者たちがイエスを取り囲んで詰問したのです。

『いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい』と詰め寄ったのです。イエスが悪霊に取りつかれて頭がおかしくなったと言う者がいる一方で、イエスの言葉が神の御旨を現わしていると考える者もいて、イエスに対する評価が定まっていなかったのです。ですから、ユダヤ人たちはイエスがユダヤをローマ帝国の支配から救うメシアなのか、そうではないのが判然としないので、イライラしていたのです。ですから、もしメシアであるのなら、はっきりと自ら断言してみたらどうか、と詰め寄ったのです。エルサレム神殿に外国の支配者の偶像が建てられたのを排除した歴史的な出来事を記念する神殿奉献祭の時にイエスが、ソロモンの回廊を歩いていたので、イエスがローマ帝国の支配からユダヤを救うメシアであるのだろうかと言う、素朴な疑問が湧きあがって来たのでしょうか。

これに対して、イエスは25節以下で答えます。『わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからである。わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う』と。既に、イエスはご自身について、何度もメシアであることを話してきました。けれども、ユダヤ人たちは信じませんでした。『わたしの羊ではないからである』(26節)と言ったように、イエスの羊であれば、イエスの声を聞き分け、イエスについていきますが、彼らはイエスに属する羊ではないので、イエスの真実な姿がわからないのです。

神殿奉献祭の際にユダヤ人が、もしイエスにメシアであるならば、明確にメシアであることを自ら証言しなさいと迫ったのは、このユダヤ人たちがローマ帝国の支配から政治的・軍事的に自分たちを解放させるメシアであることを期待していたからです。イエスがこのような政治的・軍事的にユダヤを解放させるメシアであることを期待していたのです。けれども、イエスはそういう意味でのメシアであるとは言っていないのです。けれども、このことがキリスト教を理解する上での、ある意味足枷になっている側面もあります。アメリカ大統領選挙でのトランプ氏とハリス氏のテレビ討論を見ましたが、トランプ氏が不法移民がアメリカ人のペットである犬や猫を食べているという発言には本当にびっくりしました。不法移民が野蛮で粗野だということとを誇張したいのでしょうかけれども、そういう発言をする人間に大統領になってほしいと本気で思う人間がいることにびっくりします。そういうフェイク情報を討論会で話してしまうトランプ氏の頭の構造はどうなっているのだろうかと思いましたが、そういう人物を支持するアメリカ

カの民度の低さに改めて絶望感を感じました。けれども、イエスがこうした政治的・軍事的なメシアではないことを福音書は繰り返し語っているわけで、これがキリスト教信仰の非政治性を補完している側面もあるのかもしれないと考えさせられました。

けれども、キリスト教の根幹にある博愛主義の思想は、単純に非政治性を標榜しているわけではないと思います。アメリカに不法移民が流れ込む問題は、大局的には、アメリカとメキシコなどの経済格差が大きく影響しているわけですし、政治に責任を持つとうとする者は、この経済格差がどういう産業構造の中で生まれているものかを抑えておく必要があるでしょう。簡単に言えば、アメリカが経済的に繁栄しているのは、アメリカが経済的に儲かる経済構造を創り出しているからです。その経済構造のもとで貧困にあえいでいる人が、そこから脱出したいと考えるのは至極当然で、もしかしたら、不法移民が国境を越えて流入する原因を自分たち豊かな国に住む者たちが創り出しているかもしれないと考える必要があるのかもしれない。

自民党の総裁選の討論でも、びっくりしました。労働市場の流動性を確保して、成長産業への労働移動を促進させるために、解雇規制の緩和が政府内で論議されていることです。どうも、企業がこの人を解雇したいということやスムーズに行えるような改正が自民党内で論議されていることにびっくりしました。それでなくても、非正規労働が定着してきた日本で、さらに労働者の権利を制限しようとする考え方を持っている政治家がいることに衝撃を受けました。

イエスが私たちに教えていることは、人間存在は罪人と社会から言われている人であつても、その存在自体が神の祝福を受けているということなのです。そのことが根本にあるからこそ、イエスは父なる神の名によって行う業によって癒された人が、神の祝福を受けている存在として尊ばれることを告げているのです。そのような神の祝福を信じない者がイエスの業を信じないのです。なぜなら、そういう罪人は神の恵みから外れていると見下していたからです。他人が神の律法を守れないということによって差別するやり方は、自分の周りにいる罪人や娼婦の人たちをその行いによってさげすむことによって、自分の社会的な価値をあげる、一番安易な自己保身の仕方なのです。他人を悪く言つて、見下すことで、自分の存在価値を上げるようなパターンは最も卑劣なものです。先ほどから名前を挙げているトランプ氏のような行動をとっている人物がその典型なのです。トランプ氏を支えているのが共和党だけでなく、アメリカの福音派と言われている人たちであることは非常に考えさせられるものです。イエスのご自分に従う者たちに永遠の命を与えると仰いました(28節)。そして、『だれも父の手から奪うことはできない』(29節)と仰いました。父の手から奪うことができないものは、人間は誰もが神の祝福を受けているので、その存在はただ存在しているだけで貴い者だという神の御旨のことです。だから、イエスのご自分の羊たちに対する思いと神の御旨は一致している、と30節で断言しているのです。イエスと神とは、人間存在に対する思いが一つであるところに、私たちのイエスに対する信仰の根拠があるのです。もちろん、それは神が私たち一人ひとりに対して祝福を与えているからです。イエスが十字架への道を歩まれた背後には、この神の人間に対するゆるぎない祝福の恵みがあるのです。イエスと共に、神の御旨に従っていく歩みをしていきたいものです。